

## 社会共創学部プロジェクト基礎・実践・応用演習概要（令和5年度実績）

### 産業マネジメント学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
地元老舗酒造会社、手漉き和紙職人とコラボした新商品開発と認知向上策の提案	水口酒造、多羅富来和紙、松山商工会議所	岡本 隆	道後の老舗酒造メーカーである水口酒造さん、産業イノベーション学科紙産業コースを卒業し創業した多羅富来和紙の大西さんと連携して、新商品開発に取り組んだ。マーケティングや経営学などの座学で学んだことを活用した市場分析をもとに両者の強みを活かした商品を提案した。また商品や各企業の認知を高めるためのSNSの活用にも取り組んだ。提案は今後商品化する予定である。
地域観光チャレンジ	JR四国、新居浜市多喜浜公民館、今治市役所ほか	岡本 直之	JR四国との連携事業である「地域観光チャレンジャー」に2企画を提案した結果、うち1企画は銅賞を受賞した。2企画それぞれの概要は以下の通り。 「幻の塩探訪ツアー～多喜浜の現在と過去をつなぐ塩田文化～」は、新居浜市多喜浜エリアを舞台に、かつて盛んに行われた塩田での塩づくりを学ぶツアーを企画した。「海事を開示～今治から海を見る～」は、村上水軍、船主会社、海上交通センターといった多様な視点から、今治で海事産業が発展した理由や産業界のつながりを学ぶツアーを企画した。いずれのツアーも2024年10月頃には実際に販売される。
VRがもたらす未来の福祉社会	非公開	折戸 洋子	本プロジェクトでは、福祉分野における課題の改善や支援のためのVRの活用について検討することを目的としている。特に介助者や福祉を学ぶ学生の教育内容の質を向上させ、若者の福祉に対する興味関心を高めるためのVRの活用事例や、被介助者のADL (Activity of Daily Life) やQOL (Quality of Life) の向上に貢献するVRの活用方法について検討するために、アンケート調査（有効回答720件）及びインタビュー調査（身体障害のある方2件、専門家・福祉業務従事者2件）を実施した。
平和の経済価値	—	川口 和仁	目まぐるしく変化する世界で、常に戦争や紛争、自然災害に翻弄されている我々は、今こそ「平和」とは何かについて再考する必要があるのではないか。一言に「平和」と言っても、我々にとってどこから「平和」と線引きするのかが非常に難しく、世界的に「平和」とされている日本であっても、内外には様々な対立の芽が見られ、決して手放しに「平和」と言える状況ではないのが実情である。そこで本プロジェクトでは、様々な国際問題の中から特に領土問題を取り上げ、過去における領土問題の解決プロセスを検証することで、「平和」とその価値について再考し、評価したい。
子どもの城来園数向上への取組み	愛媛県	崔 英靖	「第2期えひめこどもの城魅力向上戦略」策定にあたって、大学生からの視点と提案を求められたため、来園数向上のための提案を行った。 前期は四季折々の花々を植えることで、写真撮影目的の「中学生や高校生の来園者増」を計ると共に、遊歩道の整備や地域住民との関わりを増大させるべきだと提案した。 後期は実際に育児を行っている保護者へのヒアリングを元に、SNS運用での遊べる内容や時間の明示や、一時託児所や年齢別エリアの設置などを提案した。
愛媛大学生におけるキャリアコンサルティングの認知度・利用促進に関する調査	ジョブカフェ愛Work（愛媛県若年者就職支援センター）	曾我 亘由	大卒生の内定率は高い値で推移する一方、就職後3年以内の離職率は30%を超えている現状がある。本プロジェクトは、愛媛大学社会共創学部および法文学部の学生を対象にアンケート調査を実施し、当該学生の就業意識、キャリア意識を明らかにし、大学生の観点から企業と学生の間の就職のミスマッチの原因を定量的に把握した。これらのミスマッチの解決方法としてキャリアコンサルティングの利用可能性を考察した。
愛媛県産アボカド産物のマーケティング戦略～認知度向上と普及を目指したロードマップ・商品化の提案～	順ちゃん農園、株式会社オレンジフーズ、松山市農水振興課、宮崎県農政水産部農業流通ブランド課、JA宮崎経済連、ヤマトフーズ株式会社	谷本 貴之	本プロジェクトでは、アボカドへのイメージや認知度を把握するためのアンケート調査と、愛媛県でアボカドの生産や販売に携わる関係者にヒアリングを行うとともに、農産物ブランド化の先行事例として宮崎県のマンゴーを取り上げて、宮崎県の行政やJAにヒアリングを実施した。これらを踏まえ、国内生産量2位の愛媛県産アボカドの認知度向上やブランド化に向けたロードマップ作成、普及拡大のための商品アイデアの提案を行った。
・えひめこうち食べる通信の企画・取材・編集活動 ・松山市三津地区の壁画マップづくり	非公開	山口 信夫	食材付きメディア『えひめこうち食べる通信』の企画・取材・編集活動
おさがりゆーす～教科書の再利用～	—	徐 祝旗	本プロジェクトは大学での教科書の再利用を促す仕組みを提案し、有効性を検証します。アンケート調査を行い、大学教科書のリユースの状況（読る意向や中古購入意向、および理由等）を分析し、リアル店舗やE0とは異なる、大学構内で先輩から後輩への教科書を再利用しやすい方策を検討する。

### 産業イノベーション学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
養殖マダイ内臓脂肪の魚油抽出と有効活用	—	齋藤 大樹 後藤 理恵 清水 園子 竹内 久登	近年、原油価格の上昇や魚粉原料の減少に伴い、魚油資源も高騰している。一方、養殖したマダイの内臓脂肪は大きく発達する。愛南町では年間約34000トンのマダイが生産され、そのうち510トンの内臓脂肪が廃棄されていることが推測される。我々は、内臓脂肪を魚油資源として再生することで、地域で出た残渣の効率的・持続的な利用を提案する。本課題では、簡便な方法で内臓脂肪から魚油を抽出する手法を検討した。
新魚種としてのメジナの可能性の検討	—	齋藤 大樹 後藤 理恵 清水 園子 竹内 久登	新養殖魚として、メジナに着目した。養殖においては、飼料の高騰や魚病などによる魚の大量死が課題である。メジナは岩礁域に広く分布する雑食魚で、さまざまな原料の餌を効率的に消化吸収できると考えられる。我々は、養殖主要魚種であるマダイとメジナを混泳させることにより、残餌除去、養殖品種の多様化によりリスク低減などができるのではないかと考えた。本課題では、飼育法の違いによる食味や筋肉成分への影響を調べた。
撒き餌としてのガンガゼの集魚効果	—	齋藤 大樹 後藤 理恵 清水 園子 竹内 久登	「磯焼け」と呼ばれる藻場の衰退が世界各地で報告されている。藻場が失われると沿岸域での生物多様性が大幅に低下することが知られている。磯焼けの原因の一つとしてウニによる食害が指摘されている。しかし、ウニの駆除には一定の労働力を必要とするため、ウニ駆除に関する継続的な取り組みは行われていない。そこで、本研究では、ウニを遊漁における撒き餌として活用することで、持続的にウニを駆除するための仕組みを提案する。
保護猫団体支援に繋がるマタビペーパーの作製	—	伊藤 弘和 深堀 秀史	保護猫殺処分数が多いという問題に着目し、保護猫団体の運営を支援するための寄付を目的としたクラウドファンディングの企画を行った。クラウドファンディングの返礼品として、マタビペーパーを含有した紙（マタビペーパー）の作製を行い、マタビ成分の水溶性や材料の配合比の検討を行ったうえで、マタビペーパーの強度試験、GC-MS、猫への効果を確認する実証実験を行い、問題を解決するための一連の流れを提案した。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
クッション封筒の衝撃緩衝性能について	—	伊藤 弘和 深堀 秀史	封筒の緩衝性能比較においてクッションペーパーと気泡緩衝材の圧縮試験を実施し、クッションペーパーは気泡性緩衝材より同等の緩衝性能を有する。また、クッションペーパーの厚さが緩衝性能と広げやすさに及ぼす影響を調査し、市販のクッション封筒に使用されているクッションペーパーが適当であると結論した。
果実収穫用ロボットハンドの開発	—	山本 智規 高橋 学 小長谷 圭志	近年、愛媛県内の蜜柑農家の高齢化や担い手不足が課題に挙げられているという現状から、柑橘栽培における作業の自動化、特に農作業の中で最も負担のかかる収穫作業を自動化することでこれらの課題が解決できると考えた。そこで、現場で活用されているはさみと人差し指でみかんをはさんでとる片手取りという収穫方法を参考に、エンドエフェクタ部を精密な制御なしで動作する採取機構について検討を行った。
セルロースナノファイバー（CNF）を杉材と複合した新たな音響材料の開発	—	山本 智規	政府はカーボンニュートラルを目指して国産材の利用を促進したり、花粉症対策として花粉の発生が少ない杉への植え替えを推進したりしている。ここで、伐採した杉材の活用方法として、杉を楽器に転用することを考える。楽器は嗜好品であり、好みのものを選んで購入するため、比較的高価になっても収益が見込める。しかし、杉単体を楽器に使用すると音がぼやけるため、CNFを杉表面に複合することで、音響特性の制御を目指す。
プログラミング的思考カゲーム	—	高橋 学 山本 智規 小長谷 圭志	苦手な小学生も多く、教員も評価や指導の難しい小学生向けにプログラミング的思考力の育成を行えるカードゲームを作成する。プログラミング的思考力の中でも、特に「全体把握」「順序だて」「論理的思考」「実行力」の4点に着目しゲームデザインを行う。また、実際にゲームを小学生にプレイしてもらい、アンケート調査や実際のプレイ状況からゲーム性の評価と今後のプログラミング的思考力についての評価方法を検討する。
セラピーロボットの作製	—	山本 智規 高橋 学 小長谷 圭志	日本における社会問題として認知症が挙げられ、その療法の1つとしてロボットセラピーが注目されている。ロボットセラピーとは、メンタルコミットロボットを活用した心理療法のことで、ロボットの導入によって高齢者の生活の質の向上、介護スタッフの負担の軽減などが見込まれる。そこで「インタラクション」の機能を持つロボットを自作し、セラピー効果について検討することにした。

## 環境デザイン学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
プラスチックリサイクルにおける課題の調査	愛媛県	李 賢映	プラスチックゴミの処理過程を追っていきながら、プラスチックゴミリサイクルにおける課題の分析を行い、課題改善のための活動を目指した。プラスチックゴミ処理現場見学、自治体・中間処理業者・最終処分業者とヒアリングを行い、プラスチックゴミリサイクルにおける課題を整理する。活動で得たことは松山市内重保育において小学生とも共有し、プラスチックゴミリサイクルにおける課題の改善に向けて啓発活動を行う。
久万高原町の林業経済・森林の防災・生態系機能の改善の同時追求を目指した森林のゾーニングとマッピング	久万高原町	入江 賢子	久万高原において、林業生産・地域経済・生態系・防災を総合的に改善させる施策計画とマッピングに取り組んだ。久万高原町を訪問し、林業や製材業、治山事業、シカ対策、昆虫の保全活動について久万高原町役場や森林組合の方から話を聞き、治山事業の現地調査を行った。また、複数の生態系の専門家から久万高原町の生態系のレクチャーを受けつつ、生態系に関して著作物などによる勉強会を行った。これら知見を踏まえて、どのような施策活動が森林の生態系・防災・林業生産・地域経済にとって最適なのかを検討し、マッピング作業にとりかかった。
サイクリングをテーマとした松山市活性化の取り組み	愛媛県中予地方局	片岡 由香	重信川サイクリングロードの松山市ルートを対象に、サイクリングロードの周知と新しいサイクリングの楽しみ方の提案を行った。具体的には、サイクリングだけではなく、重信川の豊かな自然を体験できるスポットを歩くフットバスやクイズラリーの要素を組み入れたイベントを実施した。また、松山市をサイクリングでめぐるオリジナルのミュージックビデオを制作した。
西予市における養蚕農家の現状と未来可能性	愛媛県西予市、四国西予ジオミュージアム、西予市の養蚕農家	榎原 正幸	ステークホルダーである西予市の養蚕農家の方と面談を重ね、養蚕農家の現状と未来可能性について、定期的にメールや電話での聞き取りを実施（月に2回程度）し、また全7回に亘って面談を行い、話し合いを重ねた。また、2024年1月には、西予市産業部長と養蚕農家支援のための協議を行った。そして、2024年3月2日（土）に、四国西予ジオミュージアムにおいて、愛媛大学社会共創学部、西予市、野村シルク博物館が主催となり、「西予市の養蚕とアート」というイベントを開催した。第1部では、西予市村シルク区物館館長に特別講演をしていただいた。第2部では県内の住民を対象としてワークショップ「染色と刺繍が彩るシルクアートへの誘い」を県外から講師を招いて開催した。第1部には約30名、第2部では10名が参加した。イベント後には、関係者と今後の取組に関して意見交換を行った。
南予の農業遺産と生物多様性を考える	愛媛県庁 NPO森からつづく道	徳岡 良則	愛媛県南予地域は「愛媛・南予の柑橘農業システム」として、2019年に日本農業遺産に認定された。現在、世界農業遺産への登録申請に向け農業遺産と生物多様性の関係についての評価が求められている。本プロジェクトでは、南予地域に遺る多様な石垣や生垣の景観が生物相の保全にどのような貢献をしているのかの調査を評価を進めている。
遊子川地区の古民家ゲストハウスづくり	西予市遊子川地区地域づくり組織	羽鳥 剛史	西予市遊子川地区の地域づくり組織と一緒に、同地区内の古民家を改修し、地域外から訪れる人が宿泊できる施設としてゲストハウスづくりに取り組んだ。住民とのワークショップを通じて、ゲストハウスのコンセプトや運営方法、宿泊者向けの体験メニュー等を検討するとともに、障子の張替えや庭木の手入れ等をDIYで行い、ゲストハウスが完成した。
1. 不動産物件の防災観点からの分析 2. iRICを利用した土砂災害予測	—	ネトラ・プラカシュ・バンダリ	1. 不動産物件における防災対策の現状把握が不十分とおもわれ、大学周辺の不動産物件の防災的な強靭性を評価する目的で、地震・洪水・台風などの自然災害に対するリスクを特定し、対策を提案した。 2. 広島県南部地域を事例としてiRIC(Morpho2DH)を用いた斜面崩壊シミュレーションによる土砂災害想定と既存のハザードマップの土砂災害想定とを比較することにより、より精緻な土砂災害想定に基づくハザードマップ作成の可能性を検討した。
南予における南海トラフ地震への事前の備え	愛媛県南予地方局、宇和海沿岸5市町危機管理課、愛南町教育委員会	二神 透	宇和海沿岸5市町を対象に、夜間避難訓練を実施する。そのための、事前ワークショップ、避難訓練の実施、実施後の振り返りワークショップを開催する。愛南町を対象に事前復興計画のためのワークショップを実施する。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
ARアプリを使った防災まちあるきプログラムの作成と評価	西予市立野村小学校、西予市役所野村支所、野村地域自治振興協議会	松村 暢彦	西日本豪雨災害の災害伝承のためにARを活用した防災まちあるきアプリと被災者の方々に提供いただいた写真を活用したワークシートを作成し、小学高学年向けの学習プログラムを構築した。そのプログラムを西予市立野村小学校6年生での総合的な学習の時間実践した。小学生を対象にしたアンケート結果から、災害に対する理解の深化に寄与し、積極的に取り組む学習姿勢を引き出すプログラムになっていることが明らかになった。
愛媛大学マルチスピーシーズ・キャンパス	城北キャンパスのいきもの（動植物・教職員・学生を含む）	ルブレヒト・クリストフ	「全てのいきものがともに創る、全てのいきものが共生できる」持続可能なキャンパスづくりのプロジェクトの一環で、蜜源植物の調査、ニホンミツバチ巣箱づくり、インセクトホテルの作成などキャンパスを訪れる送付者を中心とした活動を行った上、今後附属高校との連携で養蜂の可能性を視野にいれる。
高井神島ウェブサイトの作成	一般社団法人 なおれの木 特定非営利活動法人 かみじま空家よくし隊	渡邊 敬逸	上島町の有人離島の一つである高井神島では漫画やアニメのミューラルアートが近年行われており、ひっそりと知名度を上げているところであるが、島へのアクセスや島内での過ごし方等の案内が無かったことから、本プロジェクトでは関係各所と連携して高井神島のウェブサイトを作成した。

## 地域資源マネジメント学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
さといもを活用したメニュー開発と販売および料理教室の開催	みらいの関川を考える会、関川公民館、四国中央市、えひめ地域活力創造センター	山藤 篤	四国中央市の特産品であるさといもを活用し、冷製ラーメン「さといもしゃしゃか麺」の開発とバザーでの販売を行った。また、スイーツの開発も行い、学生の地元の郷土料理とともに男の料理教室を開催した。開発は大学および松山市内で行い、バザーと料理教室は関川公民館にて「みらいの関川を考える会」との連携で実施した。
長浜商店街ガラスアートの取り組み	長浜町商店街、長浜高等学校、えひめ地域活力創造センター	竹島 久美子	大洲市長浜商店街では、空き店舗のガラスに絵を描く取り組みが進められている。これに長浜高校とともに参加し、ハロウィン、クリスマス、正月といった季節の特徴に基づいた絵画を描いた。これらの絵画を活用した取り組みのキャッチフレーズをGoogleフォームで募集し、「長浜ガラスアートの商店街（まちなみ水族館）」と決定した。
「横林バスツアー」の企画・実施	横林自治振興協議会、横林地域づくり活動センター、(株)ユニークツアー、西予市、えひめ地域活力創造センター	笠松 浩樹	西予市野村町横林地区において、地域資源を活用した日帰りバスツアーを企画・実施した。椎茸、和牛肉、清酒「城川郷」の収穫や試食・試飲を体験できるものであり、県内から12名が参加した。学生は横林自治振興協議会との打合せを重ね、構想、関係者との調整、松山市内でのビラ配り、SNSでの発信、1月27日の運営を自主的に進め、資源活用型のツアーに好評を得ることができた。
渡江地区における漁業環境の把握と地域住民の情報発信	渡江から一歩を踏み出す会、かりとりもさくの会、狩江地域作り活動センター、西予市、えひめ地域活力創造センター	笠松 浩樹	西予市明浜町渡江地区の漁師や農家ははじめとする住民と連携し、漁業環境の変化と農漁業の一体性についての考察を深めた。カゴ漁師と一緒に産卵場所の設置、未利用漁であるクロアナゴのレジン開発を行った。また、学生団体「未完商店」と連携し、渡江地区の風景や人物を取材した結果をオンラインの「とのえ図鑑」に掲載した。
周木人物図鑑および周木まるわかりブックの作成	周木ビリ島むらおこし会、周木地域づくり活動センター、西予市	石川 慶一郎	西予市周木地区の情報発信の一環として、人に着目した図鑑、地区の魅力や歴史をまとめた冊子を作成した。インタビュー、昔の写真の収集、現地での検証などを行い、昔あったが失われたもの、当時の逸話、写真撮影当時と現在の場所の比較を実施した。集めた情報は地図にまとめるとともに、インタビューは冊子化し、周木地区の情報発信に寄与することとした。
神社境内の石造物における文化資源的価値—石造物からみえるものとは—	西条市	佐藤 大規	本研究では、両神社境内における18種1、501基の石造物を対象に、記録・実測・写真撮影など現地調査をもとに、刻まれた「文字」を分析することで、神社境内の石造物と歴史・地域・人との関わりを考察し、その文化資源的価値を明らかにすることを目的とした。その結果、文献調査や聞き取り調査を行わなくても、石造物に刻まれた文字を読み解くことで、神社の歴史はもちろん、地域の歴史や神社と地域・人との関係性、さらには個人の歴史をうかがうことができた。したがって、神社の石造物は地域の歴史や文化を知る上で貴重な資料、すなわち、文化資源的価値を有していると考えられる。
砥部焼遺産と地域を繋ぐ—構成要素として考える遺跡の価値—	砥部町	横林 啓介	愛媛県砥部町における砥部焼歴史遺産と地域づくりに関わるプロジェクトを継続している。砥部町は江戸時代に創業し今も操業し続ける砥部焼の窯業地であり、その砥部町には多くの砥部焼の歴史遺産・遺跡が残っている。窯跡などを踏査することで遺跡の存在を明らかにするために、令和5年度は砥部町の外山、高尾田、原町、麻生、宮内、川登各地区を選び、体系的に踏査し窯跡の存否や現状を記録した。また、「砥部焼遺産と将来についての座談会」を令和6年2月に砥部で開催し、踏査成果や地域の方々の窯業に関わる事柄記憶を相互に共有する場、そして砥部焼の遺跡をいかに残していくのか意見交換する場とした。また、令和5年4月には松山南高校砥部分校の生徒を対象に砥部焼遺産めぐりを、同校教員とゼミ学生とともに、企画から実行までを連携して行った。
内子町小田の芝居小屋に関する現地調査を踏まえた文化資源マネジメント実践	内子町	井口 梓	内子町小田地区の芝居小屋6座（田渡地区八幡座、吉野川地区突合座、寺村地区金壺座、町村地区新栄座、本川地区廣瀬座、中川地区朝日座）の記録作成・資料収集と芝居小屋と庶民文化の諸相について明らかにすることを目的とした。芝居小屋に関する記録は、座の名称等のみであり、その詳細は町の記録としても残っていない。今回の調査では、立地や建築物、運営組織、経営、興行・宣伝方法について、80歳代を中心に聞き取り調査と現地調査を実施した。6座の建築年代は大正10年から昭和20年代前後、その多くは昭和38年の豪雪で倒壊した。経営者は地元主体又は、林業・製材所等の事業者であり、倉庫を併用していたものも多く、興行主は3座が同一事業者であった。今後は建物の推定復原を進め、次年度地元講演会にて発表予定である。
愛媛県伊方町名取地区における生活基盤	伊方町	淡野 寧彦	伊方町においては、近年、観光促進や移住者の獲得などに向けた取り組みが展開されている。他方で、本来の地域住民の生活の場に対する注目は低く、地域内外の交流を多面的に推し進める重要性が指摘できる。この観点から、昨年度に引き続いて旧三崎町の名取集落を対象とした現地調査を実施し、当該地域における居住のベースとなる家屋および石垣（本集落は斜面地に位置し、石垣を用いた整備が歴史的に顕著であるため）の保全・活用状況に関して分析した。本成果については、現地調査で協力を得たステークホルダーと共有したほか、令和6年2月には名取集落居住者向けの成果報告会を行うなど、社会還元も進めている。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
地域住民主体の地域文化遺産をめぐる取り組み—西予市宇和町岩木での新たな提案—	西予市	村上 恭通	地域で文化遺産が愛され、活用されるためには何をすべきか、どのようにマネジメントすべきかを検討し、その結果を地域住民に提案することを目的としたプロジェクトである。国家的な地域文化遺産認定制度ではなく、地域社会にとっての無理のない地域文化遺産生士の策定に西予市宇和町岩木地区をフィールドに取り組んだ。遺跡としてのこの太古の時代・文化や国史跡の遍路道のみではなく、中近世～現代の石造物、神社仏閣、祭り、郷土料理などもカテゴリーとして遺産候補とし、さらに住民の記憶や古写真などは記憶遺産候補として記録した。それらの結果について、岩木地区の公民館で開催した報告会や郷土料理を作り、食べる会などで地域住民と話し合い、賛意をいただくとともに今後の課題を共有することができた。
フィジー都市の建築物と景観	フィジー共和国	寺谷 亮司	令和5年10月31日～11月11日に、フィジー共和国にて調査実習を実施した。調査では3班に分かれ、飲食文化、都市景観、観光文化について調査を実施した。調査成果として、プロジェクト「社会共創学部プロジェクト演習成果報告会」（令和6年2月7日）および愛媛地理学会例会（令和6年2月17日）にて、学生が「フィジー都市の建築物と景観」のタイトルで報告し、55ページの報告書を作成した。報告タイトルを併せて以下のとおりである。「フィジー共和国のカヴァと飲酒慣行」「フィジー都市の建築物と景観」「フィジー共和国における観光文化の表象と課題—表面化する文化と後景化する文化に着目して—」「フィジーの人口動態と都市景観」。
中高年者に対するサルコペニア予防の実践活動	公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団	山本 直史	松山市総合コミュニティセンターにおいて、中高年者に対するサルコペニア予防プログラムを企画し、定期的な実践を行った（延べ参加者数900名程度）。プログラムの内容は、高精度体組成計による筋量評価、測定結果に基づくアドバイス、および簡易運動指導であった。参加者の特徴を機械学習の手法を用いて分析しながら、プログラム内容のブラッシュアップを続けている。
地域とスポーツをメディアでつなぐプロジェクト	愛媛CATV	野口 一人	本プロジェクトでは、愛媛CATVと協働し、愛媛のスポーツ振興と健康増進に寄与することを目的として活動している。学生が企画・提案し、同社の指導のもと撮影・編集して実際に番組を放映したり、同社が主催・共催するスポーツ関連イベントに参画している。2023年度は、愛媛大学生100人へのインタビューと三津浜の紹介番組を制作し、放映した。
eスポーツジャンプアップ事業	愛媛県観光スポーツ文化部地域スポーツ課	山中 亮	客観的な成果検証の客観性向上と、質の高いデータが収集できるような支援体制構築に向け意見交換を行った。今後は、地域の実情を考慮しながら柔軟な取り組みと、イベント企画や活動を踏まえた連携体制を進めていく予定である。